

桜貝器量悪しきは捨つべきや

青空の青を違へて秋深し

朝顔や縁のむらさき庭の紺

水色の剥げたる氷掻き機かな

秋風や雲をほぐして整へて

食卓の朝顔は子が切つて来る

海の家見えて私鉄のどんづまり

天高し赤子すつくと立てねども

裂け弾け飛んで遠くへ鳳仙花

通勤電車ドアに白シャツ押し付けられ

空といふ大きな器いわし雲

末枯の庭の濃き影薄き影

屋根裏へ隠し階段夏館

土地土地にその土地の空いわし雲

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

ほたるは光りががんばは踊るなり

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

紫のけむり紅葉を焚きをれば

アテンション・プリーズと薔薇咲き始む

澄む水の如き老女の句なりけり

枯れてゆくものの風音聞いてやろ

雲ひとつ天下の秋に浮ばせて

何処までも実りの秋の日本晴

秋なれやいろはにほへと散りそむる

干柿を食つて木の実を拾ふなり

沖縄も暮れて日本の秋の暮

老人の国日本の菊日和

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

露草の百夜の藍の濃かりけり

二三日重たき雨の九月かな

台風に咲く朝顔のありにけり

桜貝器量悪しきは捨つべきや

何処までも実りの秋の日本晴

水色の剥げたる氷掻き機なり

干柿を食つて木の実を拾ふなり

通勤電車ドアに白シャツ押し付けられ

紫外線浴びて真赤な鶏頭花

屋根裏へ隠し階段夏館

露草の百夜の藍の濃かりけり

ほたるは光りががんばは踊るなり

食卓の朝顔は子が切つて来る

アテンション・プリーズと薔薇咲き始む

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

秋なれや青く明るく日本晴

紫のけむり紅葉を焚きをれば

雲ひとつ天下の秋に遊ばせて

枯れてゆくものの風音聞いてやろ

沖縄も暮れて日本の秋の暮

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

土地土地にその土地の空いわし雲

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

豆腐にも絹や木綿や針供養

アテンション・プリーズと薔薇咲き始む

栗鼠忙し両手づかみに木の美食ふ

桜貝器量悪しきは捨つべきや

秋なれや青く明るく日本晴

紫のけむり紅葉を焚きをれば

雲の峰白くピーマン緑いろ

雲ひとつ天下の秋に遊ばせて

枯れてゆくものの風音聞いてやろ

こんな坂も汗ふき坂ぞ呪ふべし

沖繩も暮れて日本の秋の暮

なんだ坂こんな坂汗ふき止まず

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

水色の剥げたる氷掻き機なり

土地土地にその土地の空いわし雲

通勤電車ドアに白シャツ押し付けられ

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

屋根裏へ隠し階段夏館

何処までも実りの秋の日本晴

ワンピース日傘を差して背の高き

干柿を食つて木の実を拾ふなり

定価★二つの文庫曝すなり

露草の百夜の藍の濃かりけり

ほたるは光りががんぼは踊るなり

食卓の朝顔は子が切つて来る

夏草の高きに絡みつく草も

教科書にサーモスタット鳳仙花

豆腐にも絹や木綿や針供養

食卓の朝顔は子が切つて来る

桜貝器量悪しきは捨つべきや

秋なれや青く明るく日本晴

アテンション・プリーズと薔薇咲き始む

土地土地にその土地の空いわし雲

雲の峰白くピーマン緑いろ

干柿を食つて木の実を拾ふなり

なんだ坂こんな坂汗ふき止まず

向日葵の枯れし頭や種を採る

通勤電車ドアに白シャツ押し付けられ

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

ワンピース日傘を差して背の高き

湯あがりのやうなコロッケ秋の暮

水色の剥げたる氷掻き機なり

沖縄も暮れて日本の秋の暮

屋根裏へ隠し階段夏館

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

ほたるは光りががんばは踊るなり

枯れてゆくものの風音聞いてやろ

定価★二つの文庫曝すなり

夏草の高きに絡みつく草も

豆腐にも絹や木綿や針供養

秋なれや青く明るく日本晴

アテンション・プリーズと薔薇咲き始む

その土地にその土地の空いわし雲

雲の峰白くピーマン緑いろ

干柿が旨し木の実を拾ひつつ

なんだ坂こんな坂汗だらだらと

向日葵の頭剥がして種を採る

通勤電車ドアに白シャツ押し付けられ

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

ワンピース日傘を差して背の高き

湯あがりのやうなコロッケ秋の暮

水色の剥げたる氷掻き機なり

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

屋根裏へ隠し階段夏館

ほたるは光りががんばは踊るなり

定価★二つの文庫曝すなり

夏草の高きに絡みつく草も

食卓の朝顔は子が切つて来る

豆腐にも絹や木綿や針供養

食卓の朝顔は子が切つて来し

アテンション・プリーズと薔薇咲き始む

草市を終へて仏の静けさに

雲の峰白くピーマン緑いろ

盆踊り海に唄声消え行けり

なんだ坂こんな坂汗だらだらと

秋なれや青く明るく日本晴

通勤電車ドアに白シャツ押し付けられ

その土地にその土地の空いわし雲

ワンピース日傘を差して背の高き

芋煮会再び鍋を持ち帰る

水色の剥げたる氷掻き機なり

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

屋根裏へ隠し階段夏館

文庫より新書は長しすいつちよん

ほたるは光りががんぼは踊るなり

曼珠沙華世にも不思議な物語

定価★二つの文庫曝すなり

曼珠沙華世にも悲しき物語

夏草の高きに絡みつく草も

湯あがりのやうなコロッケ秋の暮

大仏の濡れ放題の夕立かな

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

豆腐にも絹や木綿や針供養

食卓の朝顔は子が切つて来し

アテンション・プリーズと薔薇咲き始む

草市の後は仏の静けさに

雲の峰白くピーマン緑いろ

唄声の海に消え行く盆踊

なんだ坂こんな坂汗だらだらと

鈴虫や今宵の月は知らねども

通勤電車ドアに白シャツ押されても

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

ワンピース日傘を差して背の高き

秋なれや青く明るく日本晴

水色の剥げたる氷掻き機なり

その土地にその土地の空いわし雲

屋根裏へ隠し階段夏館

曼珠沙華世にも不思議な物語

ほうたるは光りががんば踊るなり

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

定価★二つの文庫本曝す

珍重の鼻っ柱や氷頭膾

夏草の高きに絡みつく草も

湯あがりのやうなコロッケ秋の暮

大仏の濡れ放題の夕立かな

芋煮会再び鍋を持ち帰る

豆腐にも絹や木綿や針供養

草市の後は仏の静けさに

アテンション・プリーズと咲く紅薔薇

唄声の海に消え行く盆踊

ほうたるは光りががんば踊るなり

鈴虫や今宵の月は知らねども

屋根裏へ隠し階段夏館

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

定価★二つの文庫本曝す

秋なれや青く明るく日本晴

ワンピース日傘を差して背の高き

その土地にその土地の空いわし雲

雲の峰白くピーマン緑いろ

珍重の鼻っ柱や氷頭膾

なんだ坂こんな坂汗だらだらと

芋煮会再び鍋を持ち帰る

水色の剥げたる氷掻き機なり

垂れたるは束子に非ず糸瓜棚

夏草の高きに絡みつく草も

曼珠沙華世にも不思議な物語

大仏の濡れ放題の夕立かな

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

食卓の朝顔は子が切つて来し

湯あがりのやうなコロッケ秋の暮



豆腐にも絹や木綿や針供養

食卓の朝顔は子が切つて来し

栗鼠忙し両手づかみに木の美食ふ

アテンション・プリーズと咲く紅薔薇

草市の後は仏の静けさに

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

ほうたるは光りががんば踊るなり

唄声の海に消え行く盆踊

屋根裏へ隠し階段夏館

鈴虫や今宵の月は知らねども

定価★二つの文庫本曝す

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

ワンピース日傘を差して背の高き

秋なれや青く明るく日本晴

雲の峰白くピーマン緑いろ

その土地にその土地の空いわし雲

なんだ坂こんな坂汗だらだらと

珍重の鼻っ柱や氷頭膾

海の家見えて支線のどんづまり

芋煮会再び鍋を持ち帰る

水色の剥げたる氷掻き機なり

文庫より新書は長しすいつちよん

夏草の高きに絡みつく草も

垂れたるは束子に非ず糸瓜棚

大仏の濡れ放題の夕立かな

曼珠沙華世にも不思議な物語

豆腐にも絹や木綿や針供養

草市の後は仏の静けさに

アテンション・プリーズと咲く紅薔薇

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

ほうたるは光りががんば踊るなり

秋なれや青く明るく日本晴

雲の峰白くピーマン緑いろ

その土地にその土地の空いわし雲

屋根裏へ隠し階段夏館

珍重の鼻っ柱や氷頭膾

定価★二つの文庫本曝す

芋煮会再び鍋を持ち帰る

なんだ坂こんな坂汗だくだくと

文庫より新書は長しすいつちよん

海の家見えて支線のどんづまり

垂れたるは束子に非ず糸瓜棚

水色の剥げたる氷掻き機なり

曼珠沙華世にも不思議な物語

夏草の高きに絡みつく草も

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

大仏の濡れ放題の夕立かな

湯あがりのやうなコロッケ秋の暮

食卓の朝顔は子が切つて来し

豆腐にも絹や木綿や針供養

草市の後は仏の静けさに

野も山も雪を被りて眠るなり

アテンション・プリーズと咲く紅薔薇

秋なれや青く明るく日本晴

一寸だけ廻るドアノブ去年今年

ほうたるは光りががんば踊るなり

その土地にその土地の空いわし雲

雲の峰白くピーマン緑いろ

梯子乗せボックスカーや秋日和

屋根裏へ隠し階段夏館

珍重の鼻っ柱や氷頭膾

定価★二つの文庫本曝す

芋煮会再び鍋を持ち帰る

なんだ坂こんな坂汗だくだくと

糶田に心配事の無き如し

海の家見えて支線のどんづまり

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

水色の剥げたる氷掻き機なり

湯あがりのやうなコロッケ秋の暮

夏草の高きに絡みつく草も

狐火に老後楽しくなりさうな

大仏の濡れ放題の夕立かな

蟪蛄の幾千死せる枯野かな

食卓の朝顔は子が切つて来し

のびのびと氷柱伸びたる通学路

豆腐にも絹や木綿や針供養

草市の後は仏の静けさに

野も山も雪を被りて眠るなり

アテンション・プリーズと咲く紅薔薇

秋なれや青く明るく日本晴

一寸だけ廻るドアノブ去年今年

ほうたるは光りががんば踊るなり

その土地にその土地の空いわし雲

初刷を配り来る子にお年玉

雲の峰白くピーマン緑いろ

梯子乗せボックスカーや秋日和

文字札の欠けし歌留多の絵札かな

屋根裏へ隠し階段夏館

珍重の鼻っ柱や氷頭脛

破魔子とは汀女の名なり破魔矢鳴る

定価★二つの文庫本曝す

芋煮会再び鍋を持ち帰る

買初の嵩なきものの香なりけり

なんだ坂こんな坂汗だくだくと

糶田に心配事の無き如し

鏡開き既に汁粉の用意あり

海の家見えて支線のどんづまり

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

逆選もありし地獄の初句会

水色の剥げたる氷掻き機なり

湯あがりのやうなコロッケ秋の暮

夏草の高きに絡みつく草も

狐火に老後楽しくなりさうな

大仏の濡れ放題の夕立かな

蟻螂の幾千死せる枯野かな

食卓の朝顔は子が切つて来し

のびのびと氷柱伸びたる通学路

豆腐にも絹や木綿や針供養

食卓の朝顔は子が切つて来し

目口鼻胴体手足鴟の贅

アテンション・プリーズと咲く紅薔薇

草市の後は仏の静けさに

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

ほうたるは光りががんば踊るなり

秋なれや青く明るく日本晴

狐火に老後楽しくなりさうな

雲の峰白くピーマン緑いろ

その土地にその土地の空いわし雲

蠅螂の幾千死せる枯野かな

屋根裏へ隠し階段夏館

梯子乗せボックスカーや秋日和

のびのびと氷柱伸びたる通学路

定価★二つの文庫本曝す

口ぬぐふなりどびろくを呑み干して

野も山も雪を被りて眠るなり

なんだ坂こんな坂汗だくだくと

珍重の鼻つ柱や氷頭膾

一寸だけ廻るドアノブ去年今年

海の家見えて支線のどんづまり

芋煮会再び鍋を持ち帰る

初刷を配り来る子にお年玉

水色の剥げたる氷掻き機なり

とろろ汁播りつつ音の変りけり

一二枚絵札の欠けし歌留多かな

夏草の高きに絡みつく草も

新蕎麦を新酒で締めて午睡かな

破魔子とは汀女の名なり破魔矢鳴る

襲はれて蛇に呑まるる卵かな

稽田に心配事の無き如し

買初の嵩なきものの香なりけり

大仏の濡れ放題の夕立かな

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

逆選もありし地獄の初句会

豆腐にも絹や木綿や針供養

食卓の朝顔は子が切つて来し

野も山も雪を被りて眠るなり

アテンション・プリーズと咲く紅薔薇

草市の後は仏の静けさに

一寸だけ廻るドアノブ去年今年

ほうたるは光りががんば踊るなり

梯子乗せボックスカーや秋日和

初刷を配達の子にお年玉

雲の峰白くピーマン緑いろ

くちぬぐふなりどびろくを呑み干して

一枚の絵札余りし歌留多かな

屋根裏へ隠し階段夏館

珍重の鼻つ柱や氷頭脛

破魔子とは汀女の名なり破魔矢鳴る

定価★二つの文庫曝すなり

芋煮会再び鍋を持ち帰る

逆選もありし地獄の初句会

なんだ坂こんな坂汗だくだくと

新蕎麦を新酒で締めて昼寝かな

海の家見えて支線のどんづまり

糶田は心配事の無き如し

水色の剥げたる氷掻き機なり

湯あがりのやうなコロッケ秋の暮

夏草の高きに絡みつく草も

狐火に老後楽しくなりさうな

襲はれて蛇に呑まるる卵かな

蟪蛄の万の骸を枯野原

大仏の濡れ放題の夕立かな

のびのびと氷柱伸びたる通学路

豆腐にも絹や木綿や針供養

食卓の朝顔は子が切つて来し

野も山も雪を被りて眠るなり

アテンション・プリーズと咲く紅薔薇

草市の後は仏の静けさに

一寸だけ廻るドアノブ去年今年

ほうたるは光りががんば踊るなり

木枯や車の屋根の銀梯子

初刷を配達の子にお年玉

雲の峰白くピーマン緑いろ

ぐびぐびとどびろく呑んでくちぬぐふ

一枚の絵札の失せし歌留多かな

屋根裏へ隠し階段夏館

珍重の鼻っ柱や氷頭脛

破魔子とは汀女の名なり破魔矢鳴る

定価★二つの文庫曝すなり

芋煮会再び鍋を持ち帰る

逆選もありし地獄の初句会

なんだ坂こんな坂汗だくだくと

新蕎麦を新酒で締めて昼寝かな

海の家見えて支線のどんづまり

糶田は心配事の無き如し

水色の剥げたる氷掻き機なり

湯あがりのやうなコロッケ秋の暮

夏草の高きに絡みつく草も

狐火に老後楽しくなりさうな

あんぐりと蛇に吞まるる卵かな

蟪蛄の万の骸を枯野原

大仏の濡れ放題の夕立かな

のびのびと氷柱伸びたる通学路



豆腐にも絹や木綿や針供養

食卓の朝顔は子が切つて来し

のびのびと氷柱の伸びし通学路

アテンション・プリーズと咲く紅薔薇

草市の後は仏の静けさに

一寸だけ廻るドアノブ去年今年

ほうたるは光りががんば踊るなり

ぐびぐびとどびろく呑んでくちぬぐふ

暁闇の配達の子にお年玉

雲の峰白くピーマン緑いろ

珍重の鼻つ柱や氷頭膾

一枚の絵札の失せし歌留多会

屋根裏へ隠し階段夏館

新蕎麦を新酒で締めて昼寝かな

破魔子とは汀女の名なり破魔矢鳴る

定価★二つの文庫曝すなり

芋煮会再び鍋を持ち帰る

逆選もありし地獄の初句会

なんだ坂こんな坂汗だくだくと

湯あがりのやうなコロッケ秋の暮

海の家見えて支線のどんづまり

穰田は心配事の無き如し

水色の剥げたる氷掻き機なり

木枯や車の屋根の銀梯子

夏草の高きに絡みつく草も

蟻螂の万の骸を枯野原

あんぐりと蛇に吞まるる卵かな

狐火に老後楽しくなりさうな

大仏の濡れ放題の夕立かな

野も山も雪を被りて眠るなり



豆腐にも絹や木綿や針供養

食卓の朝顔は子が切つて来し

のびのびと伸びし氷柱の通学路

アテンション・プリーズと咲く紅薔薇

草市の後は仏の静けさに

一寸だけ廻るドアノブ去年今年

ほうたるは光りががんば踊るなり

ぐびぐびとどびろく呑んでくちぬぐふ

暁闇を配達の子にお年玉

雲の峰白くピーマン緑いろ

珍重の鼻つ柱や氷頭膾

一枚の絵札の失せし歌留多会

屋根裏へ隠し階段夏館

新蕎麦を新酒で締めて昼寝かな

破魔子とは汀女の名なり破魔矢鳴る

定価★二つの文庫曝すなり

芋煮会再び鍋を持ち帰る

逆選もありし地獄の初句会

なんだ坂こんな坂汗だくだくと

湯あがりのやうなコロッケ秋の暮

海の家見えて支線のどんづまり

穰田は心配事の無き如し

水色の剥げたる氷掻き機なり

木枯や車の屋根の銀梯子

夏草の高きに絡みつく草も

蟻螂の万の骸を枯野原

あんぐりと蛇に吞まるる卵かな

狐火に老後楽しくなりさうな

大仏の濡れ放題の夕立かな

野も山も雪を被りて眠るなり

豆腐にも絹や木綿や針供養

食卓の朝顔は子が切つて来し

のびのびと伸びし氷柱の通学路

アテンション・プリーズと咲く紅薔薇

草市の後は仏の静けさに

ドアノブを下へ廻して去年今年

ほうたるは光りががんば踊るなり

ぐびぐびとどびろく呑んでくちぬぐふ

暁闇を配達の子にお年玉

雲の峰白くピーマン緑いろ

氷頭膾熊の親子の知らぬ味

一枚の絵札の失せし歌留多会

屋根裏へ隠し階段夏館

新蕎麦を新酒で締めて昼寝かな

破魔子とは汀女の名なり破魔矢鳴る

定価★二つの文庫曝すなり

芋煮会再び鍋を持ち帰る

逆選もありし地獄の初句会

なんだ坂こんな坂汗だくだくと

湯あがりのやうなコロッケ秋の暮

海の家見えて支線のどんづまり

穰田は心配事の無き如し

水色の剥げたる氷掻き機なり

木枯や車の屋根の銀梯子

夏草の高きに絡みつく草も

蟻螂の万の骸を枯野原

あんぐりと蛇に吞まるる卵かな

狐火に老後楽しくなりさうな

大仏の濡れ放題の夕立かな

野も山も雪を被りて眠るなり

豆腐にも絹や木綿や針供養 食卓の朝顔は子が切つて来し のびのびと伸びし氷柱の通学路

アテンション・プリーズと咲く紅薔薇 草市の後は仏の静けさに 下向きに廻すドアノブ去年今年

ほうたるは光りががんば踊るなり ぐびぐびとどびろく呑んでくちぬぐふ 暁闇を配達の子にお年玉

雲の峰白くピーマン緑いろ 氷頭膾熊の親子の知らぬ味 一枚の絵札の失せし歌留多会

屋根裏へ隠し階段夏館 新蕎麦を新酒で締めて昼寝かな 破魔子とは汀女の名なり破魔矢鳴る

定価★二つの文庫曝すなり 芋煮会再び鍋を持ち帰る 逆選もありし地獄の初句会

なんだ坂こんな坂汗だくだくと 湯あがりのやうなコロッケ秋の暮

海の家見えて支線のどんづまり 穰田は心配事の無き如し

水色の剥げたる氷掻き機なり 木枯や車の屋根の銀梯子

夏草の高きに絡みつく草も 蟻螂の万の骸を枯野原

あんぐりと蛇に吞まるる卵かな 狐火に老後楽しくなりさうな

大仏の濡れ放題の夕立かな 野も山も雪を被りて眠るなり